

第2回彩都・中部地区に関わる提案型市場調査検討会の審議について

【会長:村橋 正武(ムラハシマサタケ) 大阪工業大学教授】

○と き 平成20年6月26日(木) 午後3時～

○と ころ エル・おおさか南館10階 南103号室(大阪市中央区北浜東3-14)

○出席者 彩都・中部地区に関わる提案型市場調査検討会委員のうち8名出席
山本委員所要のため欠席

○審議概要 議 案 「提案型市場調査の調査方針について」

◎次のような意見交換がなされたうえで、事務局作成の資料(リーフレットとアンケート調査等)に必要な修正を加え、提案型市場調査を実施することで了承されました。

【リーフレット】

- 彩都の優位性を明確に盛り込むべき。
- 想定している土地利用計画以上の魅力的で実行可能な提案について。
⇒彩都の将来像を変えるような内容は難しいが、入口から閉ざすことはしない。
(事務局)

- 緑地の確保などが必要となり、実際に使える面積を提示する必要がある。
⇒誤解のないようにヒアリング等で説明していきたい。(事務局)

【アンケート】

- アンケート調査については、意思決定できる者に送付することが必要である。
- サンプル数を増やすのであれば対象規模を引き下げる方向もある。
⇒サンプル数はこの程度を考えている。(事務局)
- 製造関連のサービス業(検査業務など)も対象にしてはどうか。
⇒検査等のサービス業を追加する方向で検討する。(事務局)
- 帝国データバンクの対象企業とは別に大阪商工会議所や関西経済連合会の会員企業も対象としてはどうか。
⇒会員企業などの確認を行いたい。(事務局)
- 別途大学向けのアンケート調査も検討してはどうか。
⇒大阪府の関係部局とも連携しながら対応したい。(事務局)
- ライフサイエンス関連分野については、レンタルラボへの進出意向を把握する等、様式を検討してはどうか。ライフサイエンス関連分野を対象に2種類の様式を作成・送付し、希望する様式で回答してもらうこともある。
⇒ライフサイエンス系のレンタルラボのニーズを把握できるよう工夫したい。
(事務局)

- 立地の意向の転換ポイントの質問内容は、細かすぎる。

【開発者向けアンケート】

- 外資系のファンドについて声をかけるということはしないのか。
⇒開発事業者へのヒアリングを踏まえ調査・検討したい。(事務局)
- 具体的な提案に関するスケジュールを押さえることが必要である。
- 計画推進の判断に際しては、立地の確実性をベースに、状況に応じて事業スキーム等について様々な工夫が必要となる。リスク軽減も含めて色々なパターンを考えることが重要である。
- UR、大阪府、関係機関の意向は重要なポイントである。計画推進の判断に必要な具体的な提案内容や時間的余裕等を整理しておくことが重要である。
⇒具体的な事業スキームや提案内容について整理するとともに、計画的に開発者に対するヒアリングを実施したい。(事務局)

【彩都の優位性など】

- 他地区との比較をするときに、現状の数字を見るか、将来予測の数字を見るのか、基準を合わせるようにしてほしい。
 - モノレールは万博公園駅での乗り継ぎが不便。
⇒できるだけ工夫しているが、現時点では彩都線の本数が、環状線より少ない。
(事務局)
 - モノレールの延伸計画は。
⇒彩都全体の開発熟度に合わせて整備予定。(事務局)
 - モノレールの利用について、乗換時間を含んでいない数字であることを明示すべき。
 - 清水高架橋の着工時期は。
⇒今年度の予算が議決されれば、今年度着工予定。(事務局)
 - 高架橋の着工もあるが、当面の清水の渋滞も考えておいてほしい。
- その他:次回検討会は10月下旬に非公開で開催する旨決定されました。